

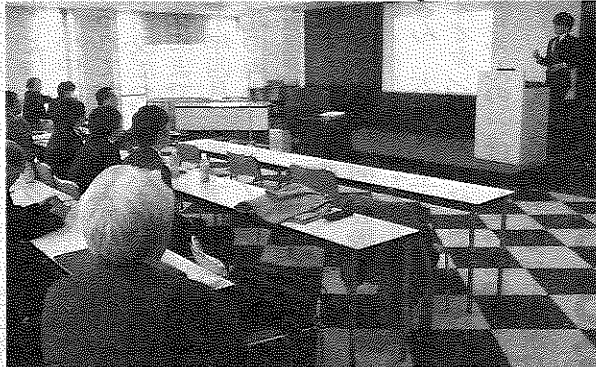
集積回路研究を発表

大牟田 初開催 世界遺産もアピール

じた技術者養成といった集積回路設計や集積回路の技術者養成方法などを発表した。

二十日は、佐賀大学大学院生で、有明高専出身の野口卓郎さんらも「生体インピーダンス計測に適した簡易型微小位相差計測回路の研究」などを発表する予定。

電気学会電子回路研究会が十九日から二日間の日程で、不知火町の商工会館で開かれている。大牟田では初めての開催。全国の大学、高専から電子回路の研究者約五十人が集まり、それぞれの研究内容を発表する。



商工会館で始まった研究会

今回の電子回路研究会は、有明高専の石川洋平准教授と清水暁生講師の研究室が担当校として運営をサポート。市制百周年を迎えた大牟田を全国から集まる研究者に知ってもらい、「研究会などコンベンション機能を活用し大牟田の活性化につなげれば」と有明高専の校舎でなく、より交通の利便性が高い商工会館を会場に

設定した。

また懇親会も旧三井港倶楽部であり、近代化遺産や三池港など三池炭鉱関連施設を含む明治日本の産業革命遺産の世界遺産もアピールした。

研究会では有明高専からは石川・清水研究室の齊藤孝一さんが佐賀大学と共同で研究した「可変オ-

パードライブ電圧カレントミラーに用いるアンプの検討」、同じく、川添浩太郎さんが「有明高専におけるLSI設計・試作検証・計測システム開発を通